

第6次知多市総合計画審議会〔第1回〕

【日 時】平成30年5月28日（月） 午後4時～6時

【場 所】知多市役所1階多目的会議室

【出席者】第6次知多市総合計画審議会委員（敬称略）

市野 恵	特定非営利活動法人 地域福祉サポートちた 代表理事
入江容子	愛知大学 法学部 教授
片山麻有	愛知県男女共同参画人材育成セミナー修了者
河村康英	社会福祉法人 知多市社会福祉協議会 副統括監兼総括主任
近藤通哉	株式会社 日本政策金融公庫 熱田支店長
榊原秀敏	あいち知多農業協同組合 営農部 知多営農センター長
高山博好	環境省 環境カウンセラー
竹内栄道	知多市商工会 副会長
竹内徳得	知多市観光協会 副会長
寺島康夫	知多市コミュニティ連絡協議会 会長
長倉剛士	日本労働組合総連合会 愛知県連合会 知多地域協議会 代表
野尻紀恵	日本福祉大学 社会福祉学部 准教授
水内智英	名古屋芸術大学 芸術学部 准教授 国際交流センター長
峯神亜由美	知多メディアネットワーク株式会社 営業部 集合・法人グループ グループリーダー
吉川佳代	知多市社会教育委員
吉村輝彦	日本福祉大学 国際福祉開発学部 学部長・教授
宮島壽男	知多市長

（事務局）

【欠席者】第6次知多市総合計画審議会委員（敬称略）

久野美奈子	特定非営利活動法人 起業支援ネット 代表理事
松本幸正	名城大学 理工学部 教授

【傍聴者】6名

【議事次第】

- 1 市長あいさつ
- 2 委嘱
- 3 会長・副会長の選出
- 4 諮問

5 議題

第6次知多市総合計画の策定について

6 その他

【会議の概要】

1 市長あいさつ

[事務局]

それでは、ただいまから、第6次知多市総合計画にかかる第1回知多市総合計画審議会を開催いたします。

なお、本日の会議におきましては、特定非営利活動法人 起業支援ネット 代表理事 久野美奈子様、名城大学 理工学部 教授 松本幸正様をご欠席されていますが、出席16名で定足数に達しております。

会議の開催に当たりまして、知多市長から、ご挨拶申し上げます。

[市長]

皆様こんにちは。大変お忙しい中、審議会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。後程委嘱をさせていただきたいと思っておりますが、会議の開始に先立ちまして、一言申し上げます。

この総合計画は、私たち市の計画の中で最も重要な計画でございまして、今まで第5次総合計画に基づく取組を進めてまいりました。2年後に市制施行50周年を迎えるにあたりまして、しっかりとこのからの市の方向を決めていきたいという中で、前倒して6次総合計画を作りたいということで、皆様方の知恵をお借りして、これから大きな計画を皆さんと共に作らせていただきたいと思いますというわけでございます。職員も一緒になって、この計画づくりに参画しております。

今日はそれぞれの分野の先生方にお集まりいただき、地域の皆さんにも入っていただき、これからの知多市をどうしていくのか、20年先をどうするのか、皆さんの知恵をお借りすることになっている訳でございます。私も一緒に勉強したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、冒頭でのあいさつとさせていただきます。本日は、大変お忙しい中、ありがとうございました。

2 委嘱

[事務局]

ありがとうございました。それでは、知多市総合計画審議会委員の委嘱に移ります。市長よりお一人ずつ委嘱書をお渡しいたします。

それでは市長、お願いします。

〈 市長から各委員へ交付 〉

[市長]

ただ今、お一人ずつお渡しさせていただきました。間違いがないかご確認いただきたいと思います。どうか、これから私どもの願いを叶えるため、お力添えいただきたいと思います。これから大変なさなか、ご自身のお仕事をお持ちになりながら、会議などいろいろご参加いただくことになると思いますが、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

3 会長・副会長の選出

[事務局]

それでは、委員の皆様のご自己紹介をお願いしたいと思います。

後ほど、皆様お一人お一人に、知多市のまちづくりについて、それぞれのお立場からのご意見をお伺いする時間をおとりしますので、ここでは役職とお名前のご紹介をお願いいたします。

それでは、名簿の順に進めていきたいと思いますので、市野委員からお願いいたします。

〈 名簿掲載順に自己紹介 〉

[事務局]

続きまして、事務局職員の紹介に移ります。

〈 事務局の自己紹介 〉

[事務局]

続きまして、会長の選出を行います。会長の選出の議事進行につきましては、市長が務めさせていただきます。

[市長]

会長の選出につきましては、知多市総合計画審議会条例第4条第2項に「会長は委員のうちから互選により定める。」となっております。互選の方法といたしまして、指名推薦で行いたいと存じますが、いかがでしょうか。

ご賛同いただける方は拍手をお願いできますでしょうか。

〈 委員より「拍手」あり 〉

[市長]

ありがとうございました。ご賛同いただけましたので、指名推薦で進めてまいりたいと思います。

会長として適任の方をどなたか、ご推薦くださるようお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

[市野委員]

審議会の会長には、知多市のまちづくりに積極的に関わっていただき、知多市の状況にもお詳しく、市民との協働によるまちづくりを研究テーマとしてみえる日本福祉大学の吉村委員が適任であると思いますので、推薦いたします。

[市長]

ただいま、市野委員から、吉村委員のご推薦をいただきました。その他の方のご推薦はございませんか。

他の方のご推薦もないようでございます。それでは、審議会の会長に、吉村委員を推薦される方は、拍手をお願いいたします。

〈 委員より「拍手」あり 〉

[市長]

どうもありがとうございました。それでは、吉村委員に会長の席へ移動していただき、ごあいさついただければと思います。よろしく願いいたします。

[吉村会長]

今、市野委員に推薦していただき、皆さんに拍手を持って承認いただきました、吉村と申します。ありがとうございます。市野委員から、知多市の状況に詳しいとありましたが、私自身もまだまだ知らないことも多いです、出来る限り皆さんとも、あるいは地域の方とも、もっと色々なことを知りながら進めたいと思います。

今回の総合計画は、私なりの理解では、これまでの取り組みを大事にしながらも未来のことを考えてやっていくということだと思いますので、私の出来ることを皆さんのお力と共に進めていければと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、引き続きまして、副会長の選出に移りたいと思います。副会長につきましては、総合計画審議会条例の第4条第3項で、「委員の中から会長が指名する。」となっています。今回、それぞれの分野でそれぞれの経験があり、この人をというのは難しいところもありますけれども、これまで、第5次知多市総合計画ならびに知多市まち・ひと・しごと創生総合戦略にも関わっていらっしゃいました、愛知大学の入江委員に是非お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

〈 委員より「拍手」あり 〉

それでは、入江委員には、副会長の席へお移りいただき、ごあいさつをお願いします。

[入江副会長]

ただいま、副会長を拝命いたしました、愛知大学の入江と申します。どうぞ、よろしく願いいたします。

私は法学部に所属しておりますけれども、専門は法律科目ではありませんで、政治行政系の科目で、地方自治論ですとか公共政策論を担当しております。その関係性で、自治体からこうしたお仕事の依頼を受けることもいくつかある中で、知多市ともご縁を頂戴して、少し前から関わらせていただいているということでございます。

知多市民ではありませんので、知多市の状況が分かっていないところがたくさんございます。地域の皆様方に色々とお知恵をいただきながら、新しい計画づくりに微力にでもなればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

〈 委員より「拍手」あり 〉

[吉村会長]

入江委員、ありがとうございました。これ以降、副会長である入江委員と共にこの会の進行を務めていきたいと思っておりますので、皆さんよろしくをお願いいたします。

4 諮問

[事務局]

ありがとうございました。それでは、次に、総合計画の策定についての諮問へと移ります。

〈 市長は会長席まで進み、吉村会長へ諮問書を提出 〉

[市長]

それでは、皆さん申し訳ありませんが、次の行事に行かせていただきますのでこれで失礼させていただきますが、皆さん方のお力をお借りしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

〈 市長退席 〉

5 議題 第6次知多市総合計画の策定について

[吉村会長]

この時間から、吉村が会を進行させていただきたいと思っております。皆さんよろしくをお願いいたします。

今市長から、第6次知多市総合計画の策定について諮問がありました。今後その諮問に基づきまして、慎重にこの場で多くの人々と共に審議を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日の議題に入ります。本日は、第6次知多市総合計画の策定について、議題となっております。まずは、事務局から説明をお願いできればと思っております。よろしくお願いいたします。

[事務局]

【配布資料の確認】

【「第6次知多市総合計画」について説明】【資料1】

[吉村会長]

今、事務局からの説明を聞いた中で、少し疑問点あるいは、こういうことを考えていたら、ということがあるかもしれませんが、それは少しとっておいていただいて、後でこの場で議論できればと思います。よろしくお願いいたします。

今日は第1回目ということで、先ほど事務局からもお話があったとおり、次回は8月ということで、先が空いてしまいます。出来るだけ、この審議会は皆さんの想いとか、先ほどお話にもありましたが、私たちにとっても私たちごとの計画になっていくことが大事だと思います。今日は、今の説明も踏まえて、それぞれの委員の皆さんに、それぞれの立場、それぞれの経験から、今日の時点での知多市のまちづくりや総合計画に向けての想いというものをご意見いただければと思います。

その際には、例えばこれから検討する際に、今の説明の中であまり触れられていなかった、例えばこういう視点が大事だとか、あるいはこれから8月の議論に向けてそれぞれの策定体制の中で議論されると思いますが、こういった情報やデータに基づく議論は是非進めてほしい、などという事も含めて、ご意見いただきたいと思います。

1人10分と言いたいところですが、それだと相当時間がかかってしまいますので、今日のところは手短かに伝えていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

[市野委員]

私は三重県生まれでして、知多市に引っ越してきてちょうど16年目を迎えます。引っ越し当初、買い物をするところもなく、まちも点々としているイメージがあったのですが、最近は、自分が少し地域に馴染んできたということもありまして、買い物をする所が増えた、生活しやすくなったという印象を持っています。ご説明にありました背景のところ、これから長寿社会に向かっていくというところで、知多市がコミュニティ施策を早くから取り組み、進めているので、もう少し具体的に進めていただければと思います。

6次総合計画のところ、もちろん、愛知県にリニア中央新幹線の開業や朝倉駅周辺の整備事業など広く関わってくると計画には盛り込まれておりますが、知多市においてのリニアやアジア競技大会などは、恐らく市だけでは関わりきれないものもありますので、皆さんと話を進めていきたいと思っています。

[片山委員]

知多半島に住む主婦として考えたのですが、先日、私の住む地域で強盗未遂事件がありました。今までそのようなことが身近に起こることは全く考えていなかったですし、中学生と小学生の子どもがいるのですが、その事件が起こって以来、学年下校から一斉下校に変わるなど、1週間ほどでしたが下校後の外出を控えるなど生活の変化がありました。

子どもが大きくなっていくと、心配する気持ちなどが少し薄れていってしまい、次の子どもたちにとっては危ないことなのですが、自分ごとでなくなることは危ないと思います。

安全安心に暮らせることを考えると、自分の市のことは自分で考えることが重要だと感じました。

色々なことを考える前に、まず安心して暮らせるまちは大事だと感じました。

[河村委員]

社会福祉協議会の立場ということで、健康福祉分野での総合計画を意識したいと思います。事務局からの説明にありましたように、6次総合計画の中で、どのように知多市への愛着形成をしていくかをメッセージとしていただいたと思っています。そういった中で、福祉的、健康的な分野の愛着形成という部分で考えたときに、60歳半ばで社会との繋がりが急速に薄れていく人が、知多市に限らず全国的に多い印象を受けています。

例えば、居場所のない定年後をどのように担保するか、医療的なケアが必要であるかにかかわらず、望んだものと違う人生の終末期を迎えることなど。延命がいけないというのではなく、膨大な医療費を使うことがよいのか。いわゆる健康増進のあり方、手厚い年金、医療が必ずしも高齢者を幸せにしているかどうか感じるところも一部あります。

母子家庭の貧困の問題ですが、母子家庭になった途端に、仕事の面、手当も含めて、格差が大きくなっています。非正規雇用、教育格差、安心安全な教育や働く場をどうやって担保できるかは、愛着形成に欠かせないのではないかと感じています。子育てにおいても不可欠な課題だと思います。

社会福祉協議会では、引きこもりの若者支援に取り組んでおり、活躍の場が少ない若者層に対し、活気溢れる集える場が、愛着形成の一つにつながると感じて話を聞いていました。

[近藤委員]

私どもの組織は沖縄除く全国に拠点がありまして、私自身は九州以外全地区に勤務しています。東日本大震災のときに東北におり、震災を経験したのですが、ある市がこれからの市の在り方を考えるときに、市民の声をとにかく反映させよう、かつ若い人の意見をどんどん取り入れたということもあります。総合計画に対するアンケートは、市民の声を反映しており素晴らしいと思うのですが、ここに書いてあるバックキャストिंगということなので、理想とする知多市の姿をストレートに市民に聞いても良いのではないのでしょうか。アンケートで該当しそうなのは、設問26や27かと思いますが、「知多市にあてはまること」は、「現状からどうだ」ということに近いかと思っていますので、むしろ市民に、どういう市であってほしいかを聞いて反映させていくのもありかと思っています。

[榊原委員]

農協の職員であり、この会について、私でいいかと思う部分もあったが、産業面でお手伝いできればと思っています。農と食に関わる分野の人間ですが、計画という場において、10年以上前からNHKで「データマップ日本」という、全国の市町村、ビッグデータや消滅市町村という言葉がない時期であったと思うのですが、色々な切り口で市町をデータで追っていくという番組がありました。この15年間で所得が最も上がった市町の上位2市町が紹介されていました。ひとつが、南高梅の産地である和歌山県の南部川村、もうひとつが、ホタテ産地である北海道の猿払村でした。一次産業を地道にやっ

るところが所得を向上させたのだということを紹介していました。片山善博氏が、データを改めて見ると各市町は何に力を入れていけばよいかがよく分かりますね、とコメントを出されており、食と農に関わる者として、心強いものを感じました。

あまりきらびやかでなく、地道なところかもしれませんが、知多市にも梅、ペコロスなど全国に誇る産品があります。こうした資源を活かしたまちづくりに、これまでも協力していただいておりますが、本計画の中でも存在感が出るようにしていただけるとありがたいと思っています。

[高山委員]

シビックプライドという言葉が出てきました。市民の市に対する意識、会社組織であれば当事者意識というものは、非常に薄れていると感じています。行政では、高齢化、少子化が必ず話題になってくると思いますが、私の体験した事例をお話ししたいと思います。

今回、環境カウンセラーとして参加していますが、環境と福祉のNPO法人びすた〜りを立ち上げてやっています。環境と福祉は、相反するものではないが、共通するものはないように思われます。事務局が福祉の専門家と環境の専門家の二人で作っているからということもあるのですが、例えば、2025年問題のひとつに高齢化があるわけですが、知多市も耕作放棄地が多くあり、景観として荒れていく。それをダイレクトに市として心が荒れていると言われます。もう一度、農地や里山の景色に戻すときに、うちの法人ができると思いました。長時間の労働はできないが、少しの労働ならばできる引きこもり系の精神障がい者ができるのが、耕作放棄地を農地に戻す活動です。環境再生を障がい者と共に取り組んでいます。また、高齢者が少し助けてほしいときに助けられるのは、一般企業では収益を上げる見込みがなくできず、行政としても一個人にいちいち関わることはできない。誰ができるかといったら、NPOや仕事のない障がい者などが参画することができるわけです。そういったことでも市というものは変わっていくと思います。知多半島がNPO銀座というぐらいNPO法人が活躍しています。

環境カウンセラーとして色々な小学校に環境学習に出向いておりますけれども、豊田市藤岡町の総合学習の手伝いにも行ったのですが、その小学生に地元愛を見つけさせるには、環境学習が役立つと思った事例がありました。子どもたちはイオンがないと物欲が満たせず不安なんです。しかし、そこでは、森や河川の生きもの調査を行ったのですが、環境省から渡された「生きもの下敷き」に載っていない生きものが沢山いるわけです。よその町では見られない、川の支流だからこんなにいるのだと言ったとき、子どもたちが自身の町を誇らしげに思ったところがありました。

そこは、地元の大企業の排水が流れている川であり、企業とタイアップして総合学習をやったのですが、企業がチェックしてきれいにしてから排水していることも子どもたちが目の当たりにしたときに、自分の親の会社のことも誇りに思い、トータルとして自分たちの町を誇りに思えることができてきました。

そうしたことにより何があるかということ、その子どもたちが高校や大学で地元を離れたとき、大人になったときに、ちゃんと戻って来たい、就職したいと思えるまちとなっていれば、ショッピングモールのないまちであろうが、帰って来ます。そこで家族を持ちたいと思える、子どもたちが帰って来たいまちになることも少子化を食い止めると思います。

子どもが帰って来たいまちになれるか、仕事のない障がい者が仕事を得ることで、社会を変えることができるのではないかということです。

[吉村会長]

ありがとうございます。先ほどの事務局の説明の中でもあったとおり、ストーリー性、子どもたちにとっての意味づけをどう持てるのかということが大事なのだということを改めて思いました。

[竹内(栄)委員]

私は、この中で最も長く住んでいる一人だと思います。もうすぐ63歳になります。市を離れたのは学生生活の4年間と結婚して1年間は名古屋市に住んでいましたが、その5年間だけであとはずっと知多市に住んでいます。

私は帰ってきたくてここに帰ってきたわけではありません。実家があり、両親のそばにいたかった、故郷ということでここに帰ってきました。シビックプライドはさらさらありません。私のような市民はいっぱいいると思います。そこの掘り下げをした方がいいという気がしています。

イオンがなくても住んでいるし、近くにあればいいだけのことです。商工業者からいいますと、このまちで、なるべくこのまちの市民、近隣の市民がなるべくこのまちでお金を落としてくれる仕組みづくりを商工会としてもやらなければいけませんし、市の商工振興課とも協力しあい、そういうことをやっていくことが大事だとは常々考えていますが、なかなかうまくいかないのが現状です。その辺もこの審議会で議論いただき、自身も商工会に戻りましたら皆と議論したいと思っています。

「魅力ある店舗」や「賑わいのある街」など言葉で言うのは簡単ですが、どうやってつくるのか。将来的な展望からいいますと、人口が減り、空き家が増える。取り組まなければならないことは山程あります。もうひとつ、工務店や不動産業を営む立場からいいますと、知多市内は宅地、家を新しく建てられる場所が少ない。若い人たちは、コスト面からも旧市街に家は建てません。新しいなるべく四角い土地に四角い建物を建てたがります。

若い人を呼び込むのは、簡単ではありません。どうやっていくかを考え、どのような先進事例があるかを見て学ぶということ、この審議会で取り組みたいと思っています。商工会につきましても、皆さんから色々ご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

[竹内(徳)委員]

観光協会の立場で出席しています。色々な役員をやっていて、前にはコミュニティ会長もやらせていただきましたし、生涯学習課でもお世話になっています。幅広く浅く行政に携わっています。もともとは技術系のサラリーマンでしたので、それまで行政に関しては全く関わっていませんでした。名前と顔を覚えていただくということで、こういった場に参加させていただいています。

立場上、関わっている観光について述べさせていただきます。知多市の観光は、市長には佐布里の梅林、新舞子のビーチ、岡田の古い街並み、を3本の柱ということで、観光の拠点にしたいと言われていきます。佐布里と新舞子は一年を通してというわけにいきません。春の梅、夏のビーチ、岡田の街並みは年間通じてという形になっています。上手くリンクさせて市全体として観光という立場で、どれだけの人を呼び込めるか、地域としてどのように観光を盛り上げるかが非常に課題になっています。

今回、事務局も言われていたとおり、20年後を踏まえて考えるということなのですが、20年後の知多市の観光はどうあるべきか、正直見えないのが本音です。観光協会も市から独立し、岡田に事務所を設けるなど観光に力を入れています。岡田の街並みが背景もあり一番良いということであったと思

ますが、街並み保存会の会長もしており、毎日一つひとつこなしながら、色々な情報を発信しながら、市外からの呼び込みをしなくてはと考えています。稼がないと、お金を落としてもらわないと、市の財政としても回っていかないわけです。地元で元気になって、なおかつ外からの人を呼び込んで、地元にお金を落としていただき、市の財政に寄与するという循環型を描かなければならないと思っています。今後、他の方の貴重な意見や考え方を学ばせていただきながら、自分の器を広くしていきたいと思っています。

[寺島委員]

現在までの立場から話をさせていただきます。コミュニティ会長をやらせていただいています。八幡は大きなコミュニティ団体です。コミュニティはそれぞれ役割を分けて行っているのので、それぞれの部会の人リーダーとなって、八幡を良くしようと頑張っています。良くすることを言うのは簡単ですが、実際携わってみると難しい面もあります。今の朝倉駅前開発の委員としても参加していますし、いかにして知多市が良くなるかという計画を、自分も実感して見えています。スパンの長い計画でもあるので、自分が生きているうちに実現するか不安ですけれども、少しでも助けになればと思っています。

コミュニティバスの関係にも参加させていただいており、知多市には必要であることを実感しています。防災とか、今後起こりうる地震などの自然災害からなんとしてでも免れるため、市民と一緒に避難訓練をしていますが、自分に降りかかることに一生懸命やれることがよく分かりました。また、市も協力してくださいました。

実際には、どうしたらいいか、戸惑ってスムーズにいかない場合があります。皆が協力してやるのがベターではないかと考えています。自分の住んでいる八幡をいかにして良くするかが第一条件で、広くはいろんな人の意見をもって考え、物事を進めていきたいと思っています。

[長倉委員]

知多市に住んで18年なのですが、会社の通勤圏内で妻の両親が近くにいたため、永住先として選択しました。これまで鉄鋼会社のサラリーマンでしたので、あまり地域について考えるということをしてきませんでした。労組代表の仕事をするようになりまして、今の知多半島5市5町の首長と政策要望ということで懇談させていただく機会がありましたが、5市5町それぞれ特徴があります。

これだけ人口が減っている中でも、大府市や阿久比町、東海市など、増えている市町もございます。そこで取り組んでいる、子育てしやすい、健康に力を入れるとか、観光資源が豊富であるなどに、周りの市町も参考にしながら作っていきたいと思いますし、知多市の海、豊富な資源を活かさない手はありません。アイアンマンレースもありますし、世界各国からお客さんもいらっしゃいます。

労働組合であるので、働く者の立場でこの総合計画の策定に関わっていければと思っています。連合の政策でも出ていますが、ワークルールを知らずに社会に出てアルバイトやパートに就き、そこで様々なハラスメントに遭うという問題に直面しているということがあります。小中高校生のこれから社会に出て行く人に、ワークルールをもっともっと教育の場で教えていかないといけないと思っています。

[野尻委員]

2011年に神戸からこちらの大学に変わってきましてまだ8年目ですし、知多市に住んでいる訳で

もありませんので、何の関係もないとも言ってしまうです。ではなぜここに選ばれたかは、恐らくスクールソーシャルワークという研究において、学校と地域を繋ぐ支援をしていることから、学校という場への意見を求められていると考えています。

知多半島5市5町は教育で言うと、学校の先生は5市5町中で動かれています。例えば、春日井市や田原市などでは、その市の中でしか動きません。5市5町の教育政策が市町によってかなり異なります。異動した先生や指導主事が先進的なところでやっていたことを次の学校でもやろうと思ってもなかなかそうはいかず、過去のを踏襲してしまっている現状があります。スクールソーシャルワーカーを活用している市は半田市、常滑市、南知多町しかありません。常滑市はとても早く、県内では豊田市に次ぐ2番です。常滑市から情報を得、半田市、南知多町までは結構早くに採用されましたが、それ以外には広がってっていないということです。

新しく専門職を入れるのは非常に時間がかかるということもありますが、一方で文部科学省は中学校区で一人配置を打ち出しており、知多市としてはどう考えていくのかが問われているかと思います。

そのためには、不登校率がどうなっているか、以前の第5次の計画とどう変わっているか、不登校数、就学援助申請率がどれくらいあって、どのくらいの貧困率であるのか、子どもたちがどういう生活をしているのかが分かるような資料をいただけたら有り難いと思います。子育て支援の施策はどの市町も多いが、自身が重要だと思っているのは、子育ての支援で、親に支援をするだけではなく、どうやって子どもたちが育っていくプロセスに支援するか、いかにお金をかけるか、少ないながらもどうするかに重要性を感じています。全体の予算執行に占める子育て、子育てへの割合。先進国の中では日本が最もお金をかけていない国であるのは、報道などでも言われています。

20年後のまちを考えるのであれば、今小学生の子どもも20年後には成人ですし、この子どもたちがしっかり育っていく社会をつくらなければ、ここで言っていることも絵に描いた餅になってしまいます。いくらここでいい計画を作っても、それを担っていってくれる子どもたちが育ていかなければいけないと思っています。どんな風に育てていくかというのは、皆さんと協議していかないといけないと思っていますが、不登校にしても貧困にしても当事者に非がないのは皆さんご存知かと思います。先程来言われているアンケートにしましても、声を聞くにしても、最も困っている人程声を上げられません。すごく困っている子どもたちや不登校の子どもたちの声をどう吸い上げて、彼らが生きてゆく20年後のまちづくりに活かしていくのかという考え方は大切にしなければならないのではないかと思います。

児童福祉法が平成28年に改正になり、子どもたちは守られる存在だけではなく権利主体であることが明記されました。権利主体とはどういうことであるかを考えたときに、子どもたちの声をどう活かしていくのかというまちづくりを積極的に進められれば、子どもに優しいまちだと打ちだせるのではないかと思います。

福祉的な課題というのは、実は現代社会では教育課題に直結しています。お金が無かったら教育を十分に受けられないというのは簡単な話ですが、私たちが考えていく計画の中で、教育に対する考え方や捉え直しを市民目線で考えていかなければ、大きくは変わらないのではないかと思いますという危惧をしています。教育をそのままにしておいて政策だけ変えていっても、子どもたちが旧態依然とした教育の中で育っていていると、ものを考えることも主張することもできません。子どもたちの現場のことをもっと知りたいと思いますし、そのような子どもたちが育ていけば、まちに愛着をもち、このまちで過ごしたい人が出てくるのではないかと思います。

[吉村会長]

まさにバックキャストで20年後を考えたときに、一番社会をリードしてくれる人を思い描き、彼らが今どうなっているのかという観点から考えるというのは、すごく大事だと思います。事務局のアンケートにおいても、そういうものに答えやすい人は多分あまり問題ではなく、本当のつぶやきをどうやって聞けるのか。この審議会だけではなく、それぞれの個別の担当課のデータも含めて活かしながらやるのが大事だと思います。

[水内委員]

市外在住勤務ですので、外からの立場で一緒に考えていけたらと思っています。専攻はデザインです。デザインといっても色々ありますが、地域コミュニティ、最近はソーシャルデザインと言われるものを理論的、実務的に取り組んでいます。その関係でここに呼んでいただけたのかと思っています。

今第6次総合計画の概要をお聞きしまして、ストーリー性を重視して共感が得られる計画という項目がありまして、そういう所に大きく書かれているのは非常に興味深く感じました。デザインという立場から、ストーリー性、共感という部分は、全体、色々な市民を巻き込みながら目標を達成していくために、非常に重要な項目なのではないかと思っています。それをどういうふうにストーリー性を組み立てて、どのような共感を作り出すことができるのかというのは、市民ワークショップなどを通じてだとは思いますが、かなり肝になると感じます。また説明いただけるとうれしく思います。

デザイン作りでは、どのようにという方法が大事になってきますので、皆さんと一緒に、具体的に実効性のあるものにしていくために方法を一緒に考えていきたいと思っています。

専門家の立場からしますと、市民プライド、都市としてのブランド力を高めるという項目が挙がっていますが、この2つはばらばらではないかと思っています。企業でもそうですが、インターナルからエクスターナルを一体的に考えることが重要で、市民へのシビックプライドの醸成が、都市としてのブランド力を高めることとイコールであることに間違いはないですし、都市としてのブランド力を高めることがシビックプライドの醸成につながるということもあります。一体的にどう捉えなおすか、作り上げていくことができるかが重要であると思います。

そのためには、私自身が知多市に住んでいないので、なかなか分かりづらいこともあるのですが、既にある典型的な強みだけでなく、知多にしかない独自性があるものを典型的なもの以外から見つけていくことができる視点、掘り起こしていくリサーチが大事なのではないかと思っています。市民の方々、長く住んでいる方々にしか分からないものもあるかもしれませんし、外の方々の声を聞くことで初めて分かるものもあるかもしれません。それをどのようにして見つけていくかの作業を大事に進められるといいと思います。

色々な市町の総合計画を見たり、関わったりする機会があるのですが、多くの市民が総合計画自体、その存在を知らないということが多々あります。色々な所で、皆さん力を合わせて真剣に作られるものであるので、是非最後はオープンなものにできるだけしていただきたいと思います。

大学では国際交流を担当しており、そのような視点からも総合計画をみると、海外からの観光をどう捉えるかということもあると思いますし、工場も多いので、移住定住した人も多いと予測するのですが、多様な人たちが活躍できる場にどうしていけるかについても、少し議論できたら嬉しく思います。

[峯神委員]

34年間知多市に住んでいまして、死ぬまで知多市には何があれば良いかを頭で考えながら仕事をしています。知多市は非常にラッキーな市だと思っています。例えば、名古屋やセントレアからは30分ほどでちょうど中間地点にありますし、すぐ隣の東海市は太田川駅前でも多くのイベントを開催して、人を集めるための賑わいづくりをやって来ています。イオンも車で30分ほどのところにありますが、朝などは周辺の渋滞が激しく、少し離れたくらいの知多市が非常にラッキーな所だと思います。

太田川と比べて、寺本駅付近の土地単価が3万円ほど安いようです。車で10分もかからない距離でお得に住めるのだと思っています。

地域のケーブルTV会社で働いているのですが、各行政の色々な取組をそれぞれ一生懸命考えられてやっているのを見えています。先ほどの東海市に関しては、814ある都市の中で、昨年度は住みよさランキング23位に入っています。東海市はどんなまちだろうと色々調べられるかと思いますが、そこから一步出てすぐ知多市がありますので、住みよい都市の隣はどんな市なのだろうというところに、目を向けてもらうのもいいのではと思っています。

先ほどの話にもありましたが、弱者と呼ばれるような方と一緒に生活ができるようなまちであれば、非常に住みやすいと思っています。例えば、豊田市では今年度内に防犯カメラを1,000台くらい設置される予定があるのですが、そういったものではなく、保育園や障がい者施設、高齢者施設に見守り用カメラをつけ、普段どのような生活をしているのかを見られるようなものを、知多市として全部に設置し、皆で見守れるようなもの。年を取って重い荷物が運べなくなったときも、宅配を積極的にやっているイトーヨーカ堂があるので、高齢者にはiPadを使えるようにする環境を整えるなど。全国的に目立つものがあれば取り上げられ、そこに人が目を向け、人が集まるのではないかと思います。賑わいづくりは隣まちがやってくれており、車で行ける買い物先もあるので、知多市として、全国初なり、一緒にやってやっているとというようなものを打ち立てて、人が集まればいいと思っています。

賑やかだけでなく、自然豊かな森や海が近くにありますが、そういった所で、子どもの教育をしながら、また戻って来たいと思われるまちになってほしいと思っています。

[吉川委員]

私は生まれてからずっと知多市に住んでいます。海があって、伊勢湾が埋め立てられたこと、農地があって皆さんが玉葱づくりなどの仕事をしてきたこと、最初は旭町と岡田町と八幡町で3つが合併して知多市になったことを子どもの頃から見えました。大変感慨深いものがあるのですが、では知多市がこれからどうしていったらよいかを考えるのは難しいというのがあります。

社会が不透明であり、私たちの生活はそういうところですがすぐが変わってしまうところが沢山あります。20年後云々と言われると大変困るのですが、例をひとつお話ししたいと思います。平成13年に第4次総合計画が作られましたが、その中に市民大学「ちた塾」を作って市民に生涯学習を勧めました。生涯学習自体は、平成3年から知多市が取り組んでいる問題なのですが、総合計画にしっかりと謳われたことで、市民の手によるちた塾ができ、5月20日に15周年を迎えました。

最初は600人程の学生と教員がいたのですが、今は年間6,000人以上います。会員は1万人以上。今までに7万人以上がちた塾に関わって、生涯学習を楽しまれたと思っています。15年の月日というのは、20年とも近いがこのようなものだという思いもあります。行政と市民が協力してやってこ

られた実績の結果だと思えます。

今回、いろいろな分野のプロがいらして発言されていますが、全てではないにしても、何かを取り上げられていく中で、知多市の特徴が生まれてくるのではないのでしょうか。個人的には、自然のある知多、緑、雑木林のある知多であってほしいと思えます。

ちた塾も60~90代の高齢者が5~6割を占めており、この人たちについてどうしていくかという問題も考えているのですが、その人たちが元気であれば医療費削減になりますし、地域に戻っていけば活力ある地域もでき、お互いに助け合うこともできるのではないのかというかすかな期待を持って今取り組んでいます。20年後の知多市も、そういうのが実際に出来上がっていて、知多の人たちは凄いとされるまちにしてほしいと思えます。

[入江委員]

今、皆様方のご経験、専門などのお話をお聞きして、非常に勉強になると拝聴していました。自身の専門は地方自治ですので、その観点から、総合計画の審議会についてお話申し上げたいと思えます。

全国どこの市町村もそうですが、社会減としても自然減としても人口減は避けられない要件であると思えます。これを悲観するというのではなくむしろ現実として受け止めたうえで、10年20年後のまちをつかっていくかを考えたときに、身の丈に合ったまちづくりをすべきだと思えますし、それは賢く縮んでいくということではないかと思っています。それを考えたときに、基本の指針となるべく総合計画を皆さんと議論していくのだと思っています。

これまでのように、何か新しいものをつくったり開発したりするには限界があるということですので、何を次代に残していくかを考えると、環境や人材がまさにこれからのまちの財産になっていくと思えます。それは、多様な市民、多様な年代の市民がそこにいて、いかに住みやすく活躍できるようにするかを総合計画の中で皆様方と目指して行ければと思っています。

今回、この審議会のお話をお受けしたときに、かなりの驚きを持って素案を拝見しました。例えば計画策定の基本的視点において、地域全体の公共計画、目標展望型の計画、バックキャストの考え方は、これまで行政が計画を作る中では全然出てこなかった言葉、考え方です。ですので、今回の作り方はかなりチャレンジングだと思っています。またそのチャレンジングを見聞きした時に、是非参画させていただきたいと強く思いました。新しい取組、新しい計画を新しい仕組みの中で作っていくことが、チャレンジングな場になるとと思っています。経験豊富な皆様方と議論ができるのを大変楽しみにしております。

[吉村会長]

少しだけ私が思っていることを共有して、次回以降の議論につなげていければと思っています。入江委員と重なる問題意識は相当持っていて、重なる部分は、今日はお話しないで終わりたいと思えます。

私の大学キャンパスは太田川にあり、住んでいるのは半田です。常に意識しながら、朝倉駅も含め知多市がどうあるべきか、それはハード整備だけではなく、色々なものの整備がされた後、さらにされる前から、地域の資源だけではなくこれから作り出されるモノも含めて、どう使いこなせるか、使いこなしていくのかの視点の中から、これからの知多はどうあるべきかを考えていく必要があると思っています。

色々なところに行っていますが、知多半田や太田川は反面教師として考えなくてはならない対象だと

思っており、もっとこうあるべきだ、もっとこうすることができたのではないかと、を自分事として携わりながら、まちを育てていくという観点から見ていく必要があることを大事にしたいと思っています。

市野委員からも話がありましたが、人口減はもはや課題ではなく前提であり、必ずしも悪いことではないのではという中でどう考えていけるかは、知多市にとって面白いことなのではないかと思っています。名古屋市の新たな都市づくり検討部会が始まっていたり、三河地域の都市計画に関わると、20年後はまだ人口は増えているという話になっています。いずれにしても、社会は人口減をどこかのタイミングで迎える中で、これから増えていくからどうしようかということではなく、この先のこういう社会のために今何をすべきか、つくらないという選択肢も含めて考えてみることも大事だと思っています。

4歳児の息子が、成人を迎えるときに自分は定年に近くなっています。これが例外ではなく、多様性のある家族形態、働き方、暮らし方があるという中に、こういうのがモデルだ、というのではない、知多市はどれだけ優しく包み込めるようなまちにできるかがすごく大事だと思っています。生まれてからだけではなく、これから知多市に関わってくれる人も含めて、一緒になって考えられる、動くことができるようなものにしていけることが大事だと思っています。

是非今日皆さんのご意見も踏まえながら、私達ごととして、新しいチャレンジングとして、最終的に出た総合計画が、知多市がつくったものではなく、私がすごく関わって誇りに思えるものとなれば、関わった人たちにとっても、思い出だけではなく大事なものになるのではないかと思っています。

時間の都合上、もし先ほどの事務局からの説明の中で確認しておきたいことがあれば、今お聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

水内委員からお話があったとおり、入江委員もおっしゃっていたが、さらっと書いてあって一体これは何だろうというものを、自分たちで形にしていくのだ、計画書自体典型的なものにせず、自分たちでイメージし自分たちの形にすることと受け取っています。これからは楽しみにしたいと思っています。

[市野委員]

ひとつ気になっているのが、長寿社会ということもあるのですが、介護人材がほとんどないという状況の中で、これから人材育成をどうしていくのかということです。水内委員もおっしゃっていましたが、知多市は外国人の在住者がすごく多いので、その数値もこの中に盛り込んでいくべき、必要な人材になってくると思います。その辺の数値もしっかり出していただきたいと思っています。

[吉村会長]

先ほど野尻委員からも話がありましたが、本日初めて聞き、これから深く読みながら精査し、大事だ、必要だと思うことがありましたら、事務局まで伝えていただきたいと思っています。「前向きな議論をしっかりする場」にしたいと思っていますし、行政や策定支援業者だけではなく、私たちが持っている色々な経験や見地、視点を大事にしながら進めていきたいと思っています。これから2年近く一緒になって考えていきますので、是非ご協力のもと進めていきたいと思っています。

ひとつ気になっているのが、プロジェクトチームやワークショップ、アンケートなどがそれぞれリンクしないで結果だけ聞くというだけでは、なかなか心がこもった、リアルな話にならないことが懸念されることです。それぞれが動きを共有しながら、できる体制づくりも含めて行う必要があります。日

程の都合さえつけば、色々なところに出向きたいと思っています。

それぞれの現場のなかで、知多市と関わる部分で色々な人たちがどういうことを気になっているのか、つぶやきを拾う機会があれば、是非集めていただき、こういう場で是非共有しながら、一緒に議論できればと思っています。計画、企画されていない場面場面で、皆さんと関わる人たちの思い、つぶやきも共有しながら進めていきたいと思っています。

最初の議題はここまでということではよろしいでしょうか。その他の議題がありますので、こちらは事務局からお願いいたします。

久野委員、松本委員からも、本日欠席なのですが、コメント、意見をいただいていますので、それも含めてお願いいたします。

[事務局]

わかりました。それでは、本日欠席されています、久野委員、松本委員からコメントをいただいておりますのでご紹介させていただきます。

まず、久野委員からです。本日は欠席となってしまい、誠に申し訳ありません。バックキャスト型の計画策定は良いと思いますが、その時に描く、理想とする知多市の姿とは、希望的観測に基づくものではないことと考えております。社会が一層厳しさを増していくであろう中で、どんな環境に置かれた方であっても、希望を持ち自分らしく生きていくことが出来るまちを実現するための具体的な姿を描いていけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、松本委員からでございます。知多市では、朝倉駅周辺整備基本構想が策定されており、今後、朝倉駅整備を起爆剤としたまちづくりが期待されます。ただ施設やインフラの整備だけを行えばよいのではなく、その使い方も考えた空間整備が不可欠であるとともに、ソフト施策も同時に取り組んでいかなければ成功はしません。また、公共交通、特にバスネットワークの在り方の検討も必要になります。拠点の整備とそれを繋ぐネットワーク構築が便利で豊かな知多市での生活を実現することにつながるはずです。

一方で、自動運転など新しい技術の導入も進むと考えられます。これらの新しいモードを活用した、未来を見据えた計画が策定されることを期待しています。

以上、ご紹介させていただきました。

続きまして、事務局からご連絡がございます。次回の審議会の開催につきましては、先ほども説明の中で申し上げましたが、8月27日（月）を予定しております。現在の所、午後からの開催で調整したいと考えております。詳細の時間や会場につきましては、後日通知させていただきます。また、3回目以降の審議会につきましても、出来るだけ多くの委員の皆様にご出席いただけるよう、日程調整を進めて参りますので、よろしくお願いいたします。以上です。

[吉村会長]

ありがとうございます。それでは時間になりましたので、本日の議事を終わりたいと思います。これにて、第1回の総合計画審議会を終わりたいと思います。本日は本当にありがとうございました。同時に、これからも是非ともよろしくお願いいたします。